



# 日本アスレティックトレーニング学会

News Letter 第9号

発行:2021年2月26日

## No.9 掲載内容

1. 第9回日本アスレティックトレーニング学術大会を終えて	2
2. アスレティックトレーニング学会委員会よりお知らせ	4
3. アスレティックトレーニング学会員の活動報告	6
4. 事務局より学会員の皆様へ	8
編集後記	9

# 1. 第9回日本アスレティックトレーニング学会を終えて

## 第9回日本アスレティックトレーニング学会学会大会を振り返って(謝辞)

大会長: 広瀬 統一(早稲田大学)

2020年12月5日より開催された第9回日本アスレティックトレーニング学会学会大会が31日に終了いたしました。急遽の大会形式の変更と初めてのオンデマンド開催であったにもかかわらず、400名を超える参加があり、盛会のうちに学会大会を終了することができました。

この場を借りてあらためて参加者の皆様、丁寧に講演の準備をしてくださった講師の先生方、そして非常に精力的に大会準備をしてくださった実行委員会の先生方に心より感謝申し上げます。

大会終了後には多くの参加者から、オンラインでの学会大会開催に関して前向きな評価をいただきました。これまで日常の業務で参加できなかった対面型での学会大会でもオンデマンドであれば参加できることや、海外からでも参加できたため本大会を通じて日本の状況を知ることができたという、大会の価値に関する新たな可能性についても知ることができました。一方で、対面形式ならではの臨場感あるディスカッションを再現する必要性などの課題も散見されました。

新たな可能性や価値を最大化しながら課題を最小化して、参加者、講師、そして協賛いただく企業のみなさまにとって、有意義な学会大会するにはどうすべきかを今後も皆様とともに考えていきたいと存じます。

第10回大会は日本アスレティックトレーニング学会において記念すべき大会として、現理事のエネルギーを結集して開催いたします。予測困難な状況ではございますが、第9回学会大会にて皆様にごいただいたご意見、そして私たちが得た経験を最大限に活用して、日本のアスレティックトレーニング界の発展、ひいては社会の発展に貢献できるような学会大会にしたいと考えております。会員のみなさまの引き続きのご協力を、こころよりお願い申し上げます。

改めて、第9回大会にご参加くださった皆様、貴重な講演を賜った講師の皆様、そして充実した大会に設えてくださった実行委員の先生方に、心より感謝申し上げます。

## 第9回日本アスレティックトレーニング学会学術大会を終えて

### 実行委員長:細川 由梨(早稲田大学)

第9回日本アスレティックトレーニング学会学術大会の大会実行委員長を拝命するに当たり、私が最も意識したことは、本学術大会テーマ「アスレティックトレーニングの専門性と多様性」をいかに表現するかという点でした。

我が国のアスレティックトレーニング界は様々な有資格者が協同していく中で発展してきた歴史をもち、その中にはスポーツ医科学の実践者としての「専門性」と、学際的なバックグラウンドに示される「多様性」が共存しています。第9回大会でご講演頂いた先生方の略歴を拝見しても、アスレティックトレーニングという学術分野が多くの先人の「専門性」と「多様性」で成り立っていることが明らかになったのではないかと思います。

さらに、本大会では教育講演やシンポジウムに加えて臨床ワークショップと学術ワークショップという枠を新たに設けさせて頂きました。これは学術と現場の架け橋になる情報を学会として発信し、アスレティックトレーニング学という学術分野にはいろいろな立場の実践者(臨床・研究・教育)がいることを示したいという思いからです。実際に臨床ワークショップでは学術的・科学的根拠に基づいた臨床へのヒントが、学術ワークショップでは対象者(患者)にとって意味のあるアウトカムを導くための方法が提案されました。学術と現場は決して2つの異なる世界なのではなく、その間には強固な繋がりがあることが示唆されたワークショップとなりました。

また、第9回学術大会に関しては新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大による影響を受けたことで対面での実施が不可能となり、学会の届け方についても試行錯誤しました。人々の移動や接触

を防ぐための策として全てオンデマンドで実施するという本学会では前例のない形式をとりました。しかし、結果として総勢424名(会員234名、非会員120名、学生70名)の参加を頂いた大会となりました。オンデマンドにしたことで講演者との直接的な意見交換ができなかったというご意見のあった反面、現場で多忙を極める中でも隙間時間に自身のスケジュールに合わせて聴講することができた、という前向きな感想も多数頂きました。今後の学術大会のあり方について考える良いきっかけにもなりました。

広瀬大会長の基調講演は、一般公開ページからの視聴回数が600件を越え、オンライン開催ならではの強みをいかすことができたのではないかと感じております。

COVID-19との戦いはまだしばらく続きそうですが、このような中でも学術大会開催にむけてご理解・ご支援頂きました日本アスレティックトレーニング学会理事の皆様、及びご協賛頂きました各社様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。



左から:古庄敦也(事務局補助)、秋山圭(事務局長)、広瀬統一(大会長)、細川由梨(実行委員長)、吉村茜(事務局補助)、西海大地(事務局)

## 2. 日本アスレティックトレーニング学会委員会よりお知らせ

### 編集委員会

#### 日本アスレティックトレーニング学会誌優秀論文賞について

日本アスレティックトレーニング学会誌第5巻に掲載された論文の中から、優秀論文賞の選定を行い、以下の論文について学術大会において表彰を行いました。授賞された先生方、この度はおめでとうございます。

#### 第5巻

最優秀論文:大垣 亮(帝京平成大学)ほか

「男子大学生ラグビー選手における肉離れの疫学調査」

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsatj/5/2/5\\_123/\\_article/-char/ja/](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsatj/5/2/5_123/_article/-char/ja/)

優秀論文:筒井 俊春(早稲田大学大学院)ほか

「慣性値を用いた発育期にある野球選手における肘障害リスクの検討」

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsatj/5/2/5\\_151/\\_article/-char/ja/](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsatj/5/2/5_151/_article/-char/ja/)

### 用語集作成プロジェクト委員会

「用語集」の公開は2021年5月からを予定しております

前号のNews Letterで紹介させていただきましたアスレティックトレーニング学会がリリースする「用語集」ですが、公開に向けての準備がほぼ整いました。2020年内での公開を準備しておりましたが、この度日本アスレティックトレーニング学会ホームページ(以下、本学会HP)全体をリニューアルすることになり、そのタイミングに合わせて新たに「用語集」としてのページを追加して一般公開するための準備を進める運びとなりました。

そこで用語集作成プロジェクトとしましては、今回の本学会HPのリニューアルと時期を同じくして「用語集」を公開することといたしましたことをご報告させていただきます。また用語集作成プロジェクトでは第一弾の「用語集」公開と並行しまして、第二弾として用語を追加するための準備を進めております。今後とも「用語集」にご期待いただければ幸いです。

## 学術委員会

### 第3回日本アスレティックトレーニング学会ウェビナー開催のお知らせ

2021年3月20日(土)に第3回日本アスレティックトレーニング学会主催ウェビナーを開催致します。テーマは日本AT学会誌特集記事「スポーツにおける頭頸部外傷の予防に向けて」です。アスレティックトレーニング業務において、頭頸部外傷は非常に重要なトピックです。今回のウェビナーでは、アスリートの頭頸部外傷予防について様々な知見を通して多角的に考えます。

講師には、阿部さゆり氏(帝京大学)、鈴木啓太氏(筑波大学)、越田専太郎氏(了徳寺大学)の3名の先生をお招きしております。阿部氏にはスポーツ脳振盪の一次、二次、三次予防法に関してご講義頂きます。予防的アプローチだけでなく、受傷後に選手をいかに「安全・安心」に日常生活やスポーツ活動へ戻すのか、さらに再発を予防するのかといった脳振盪予防を包括的に捉えた内容となります。また、鈴木、越田両氏にはそれぞれ、ラグビー・柔道という2つの競技における頭頸部外傷の予防に向けた知見をご講義頂きます。より競技活動に則した内容です。多くの方の積極的なご参加をお待ちしております。

詳細およびお申し込みは以下のURLよりご確認をお願いいたします。

#### 【会員用申込み URL】

<https://peatix.com/event/1801150/view?k=6d98356769fe1919b75d0eb490d426d2ba0361c1>

### 3. アスレティックトレーニング学会員の活動報告

#### Profile No.3



氏名： 佐々部 孝紀 / JSPO-AT (2014 年取得)

所属： フリーランス

主な活動拠点：

富士通フロンティアーズ(アメリカンフットボール)、山梨学院大学(男子バスケットボール部)、佐久長聖高校(陸上部、女子バスケットボール部)、帝京平成大学(非常勤講師)、早稲田大学高等学院(非常勤講師)

—現在のお仕事やアスレティックトレーナーとしての活動内容・得意とされていることについてお教えてください。

スポーツ現場での活動として、富士通フロンティアーズでは、ストレングス部門のトレーナーとしてトレーニング指導を行っています。ここでは、テーピングや救急処置等のアスレティックトレーナーが主に行う業務ではなく、ストレングスコーチとしての役割を多く担っています。また、山梨学院大学では男子バスケットボール部のヘッドトレーナーとして、佐久長聖高校では陸上部(短距離)と女子バスケットボール部のヘッドトレーナーとして活動しています。ここでは、近隣の治療院と連携を図りながら、トレーニング指導を中心にアスレティックトレーナーとしての役割も担っています。

教育機関では、帝京平成大学において JSPO-AT や JATI 関連科目の非常勤講師として、早稲田大学高等学院では体育科の非常勤講師として体育および保健の授業を担当しています。

トレーニング指導のベースとしては、スクワットやクイックリフトなどのベーシックなものが中心ですが、そこに加えて身体の評価、評価を基盤としたコレクティブエクササイズの指導を加えられることが強みだと実感しています。また、それらを用いたアスレティックリハビリテーション指導も現場ではよく行っ

ています。

—現場活動において「研究」を活用した事例／「科学的アプローチ」の経験があれば教えてください。

修士課程の研究において、スプリントを用いた180度方向転換動作のスピードには、方向転換動作の重心高が関連しており、重心高が低い選手ほど下肢筋力が高いことが分かりました。この結果から、方向転換動作スピードの向上にはスクワットの挙上重量(体重比)を向上させたうえで重心を落とすための身体的スキルを高める必要があると考え、現場の指導に活用しています。

その他、年間のトレーニングスケジュールや週単位のトレーニング量についても、エビデンスを基に設定し、サプリメントについても論文をチェックし正確な情報を選手と共有するように意識しています。

—ご自身の活動現場で解決を模索していること、もしくは、アスレティックトレーニング領域のなかで新たにチャレンジしている問題や課題があれば教えてください。



現場で活動する中で、最近特に考えることは寒冷療法(アイシング、冷水浴、クーリング)の活用についてです。

最近では、ウエイトトレーニング後の冷却刺激は筋肥大を抑制するという研究報告もあることから、特にアメリカンフットボールの現場では、冷水浴のタイミングに気をつけています。一方で、トレーニング前の冷水浴に関しては未だそれほど研究がなされていませんが、ネガティブな報告はされていません。そのため、練習の疲労を取り除くことと、筋力トレーニングの効果を減らさないことの両立を考えて、冷水浴を希望する選手には、全体練習が終わった後、ウエイトトレーニングの前に行うようアドバイスしています。また、炎症に対するアイシングに関しても、炎症箇所を、筋肉、関節、靭帯の3つに分けて考えることが必要だと考えています。特に筋肉に関しては、冷却刺激が筋の再生にネガティブな影響を及ぼすとの報告もあることから、積極的なアイシングは必要ないのではと考えられます。一方、関節の炎症に対しては、腫脹のコントロールを目的として、比較的アイシングを行う場合が多くなっています。また、冷却刺激が足関節捻挫後などの靭帯の再生に及ぼす影響については、腫脹を抑えられる、痛みを取り除けるというポジティブな面と、コラーゲン合成を妨げる可能性があるというネガティブな面のバランスをとる必要があるため、まずは現場レベルで検討していきたいと考えています。

—アスレティックトレーナーとして、今後やってみたいことを教えてください。

アスレティックトレーナーはスポーツ現場の様々な場面において、マルチな役割を担う必要があります。その中で、特にトレーニングは実際に「やって見せる」ことが大切であると感じており、私自身意識して活動しています。しかし、現場に目を向けてみると、トレーニングやアスリハで用いるエクササイズを「やって見せる」ことのできないアスレティックトレーナー志望の学生が多いように感じています。また、競技レベルが上がるとメディカル面をアスレティックトレーナー、フィジカル面をトレーニング指導者が担う場合も多いですが、アスレティックトレーナーがトレーニング指導者と連携をとる上でも最低限のトレーニングの知識・スキルは必要です。JSPO-AT 受験予定者である実習生を指導する機会もあることから、アスレティックトレーナーごとの所有資格やその職域に注意しながらも、トレーニングを「やって見せる」ことのできるトレーナーの教育に携わっていければと考えています。



トレーニング指導の様子

---

#### 4. 事務局より皆様へ

- ・年会費のお支払いについて

お支払いがまだお済みでない方は、事務局(jimujsat@soubun.com)までご連絡くださいませ。

払込先等、ご案内させていただきます。

- ・登録情報の変更申請について

ご所属、住所変更など、登録情報のご変更は、

日本アスレティックトレーニング学会 公式ホームページ>会員ページ から申請いただけます。

<http://www.js-at.jp/mypage2/mypage.html>

会員ページ (<http://www.js-at.jp/mypage2/mypage.html>) へのログイン方法についても、ご不明点がございましたら、事務局までご連絡ください。



---

## 編集後記

日本アスレティックトレーニング学会 News Letter 第 9 号をお読みいただきありがとうございました。  
今回は、2020 年 12 月に開催された第 9 回日本アスレティックトレーニング学会学術大会の大会長および  
実行委員長の広瀬・細川両先生より、学術大会を振り返っての原稿を掲載いたしました。オンライン開催と  
いう、今まで経験のない学術大会形式の準備並びに運営についてお話しをいただきました。

また、各委員会からの情報提供を掲載させていただきました。特に 2021 年 3 月 20 日(土)に第 3 回日本  
アスレティックトレーニング学会主催ウェビナーの開催が学術委員会より寄せられております。テーマは日  
本 AT 学会誌の特集記事「スポーツにおける頭頸部外傷の予防に向けて」です。会員の皆様のご参加をお  
待ちしております。

広報委員会としての定期企画である会員紹介では、現在フリーランスで幅広く活躍しておられる、佐々部  
先生に取材をお願いしました。アスレティックトレーニング領域でどのような活動をされている方々がおられ  
るかを引き続き紹介していきます。会員の皆様に、活動形態や現場での情報共有として活用していただ  
けますと幸いです

最後に News Letter が PDF 形式での配信となり 3 回目で、今年度最後の配信となります。今後も学会員  
の皆様へ、より身近で情報収集しやすい媒体を目指して広報委員会一同精進していく所存です。変わらぬ  
当会活動へのご理解・ご協力をよろしく願いいたします。次号は 2021 年 5 月末日の発行予定です。それ  
までにはコロナ終息に向けた明るいニュースを期待している今日この頃です。

(広報委員会 News Letter 担当: 田口暢秀)

## **日本アスレティックトレーニング学会 News Letter 第 9 号 2021 年 2 月 26 日発行**

編集: 日本アスレティックトレーニング学会広報委員会

News Letter 担当 田口 暢秀、佐々木 さはら、久保 誠司、津賀 裕喜

片寄正樹(担当理事)、岩本紗由美(委員長)

発行: 一般社団法人日本アスレティックトレーニング学会

事務局住所 〒116-0011 東京都荒川区西尾久7丁目 12-16 創文印刷工業株式会社内

電話 03-3893-0111 FAX 03-3893-6611

E-mail: [jimujsat@soubun.com](mailto:jimujsat@soubun.com) URL: <http://www.js-at.jp>

---